

第559回

I B C 番組審議会議事録

－議題－

『テレビ・ラジオの東日本大震災報道番組について』

平成23年4月20日（水）

(株) I B C 岩手放送

第559回IBC番組審議会

1. 開催日時 平成23年4月20日（水）午前11時
2. 開催場所 デジタルセンター3F Dホール
3. 委員の出席
- | | |
|---------|----------------------------------------|
| 委員総数 | 11名 |
| 出席委員 | 8名 |
| 出席委員の氏名 | |
| 委員長 | 田代 高章 |
| 副委員長 | 熊谷志衣子 |
| 委員 | 大村友貴美 小笠原 裕
小松 務 澤口たまみ
白石 茂 杉本 博 |
| 欠席委員の氏名 | 工藤 和彦 田辺 博
矢佐 俊幸 |
- 会社側出席
- | | |
|-------|----------|
| 阿部 正樹 | 代表取締役社長 |
| 阿部 広 | 常務取締役 |
| 鎌田 英樹 | 常務取締役 |
| 熊谷 鉄郎 | 取締役編成局長 |
| 川上 隆 | 取締役営業本部長 |
| 武田 敏哉 | 報道局長 |
| 関 芳樹 | テレビ制作部長 |
| 姉帯 俊之 | ラジオ放送部長 |
| 眞下 卓也 | 報道部長 |
- 事務局
- | | |
|-------|-----------|
| 中島 勝志 | 番組審議会事務局長 |
| 小笠原 勉 | 事務局 |
4. 議 題 『IBCテレビ・ラジオ
東日本大震災関連の報道番組について』

5. 議事概要

<委員の主な発言>

- 印象的だったのは、田野畑村の自家旅館の女将さんが言っていた「津波てんでんこ」。この意味は津波が来たら周りに構わないで、てんでんばらばらに逃げろということらしい。悲しい理論であるが、今回は確かにそういう方が生き延びたように思う。
- 安否情報が非常に役に立った。できれば名前は平仮名やカタカナ表記ではなく、漢字であればより確認しやすい。緊急事態の中、ここまでは強く望めないとは思いつつも、簡単な住所・年齢・漢字表記の名前が最低限の情報だと感じた。
- 今回は地震による津波災害だけではなく原発事故もあった。原発事故関連では専門家の意見や解説があったが、情報過多になってしまい、どれが正しくてどれが正しくないのか、解説する人によって違うところもあって我々素人が判断するのは非常に難しい。どこか公的なところから整理された情報提供が一番大事ではないか。
- 「朝ズバッ！」では今伝えたいことで、みのさんがいろんな情報、応援メッセージを読んでいる。毎日、涙がなくては見られないような内容が多い。頑張るといふ言葉は、これ以上頑張れとは言えない状態だとよく聞かすが、やはりこれからも応援を続けていって欲しいし、このコーナーも続けていただきたい。
- 「ふるさとには負けない！」のキャッチコピーはすごくいいなと思った。岩手を離れている人たちの気持ちにもぴたり来るし、とてもいい言葉だと思った。
- 停電でテレビが見られない状況の中で、唯一情報源として機能するのはラジオであることを改めて認識した。ラジオで冷静に対応していたアナウンサーの皆さんの落ち着いた語り口は、聞いていて安心感が出てくる。感謝したい。
- 報道機関として役割が大きかったのは安否情報です。携帯電話も使えない状況の中で果たして身内はどうなっているのか。家族が離れている場合の安否情報の大事さ、カタカナの情報だと人の識別がつかないという意見もあったが、情報の迅速性と正確性をどう両立させていくかは、今回のような大震災の場合は非常に厳しい難しい問題か。
- 情報に関しては良し悪しがある。ガソリン不足が起きたときの販売情報で、ガソリンスタンドに車が殺到し、周辺住民からの苦情のファックスを紹介していたが、うまく整理するような報道もあわせて必要だと実感した。その意味ではスタンドの開き情報を放送するだけではなく、それに対する対応の手立てもある程度考慮しておくことも必要ではないか。
- ACジャパンのCMは優しさとか思いやり中心の内容だったが、欲を言えば種類を増やしてもいいし、やはり見ている元気がでるような内容のものがいい。